



## 露地野菜専攻



## CONTENTS

- 1 新年あいさつ
- 2 専攻紹介 露地野菜専攻
- 3 卒論発表会の開催
- 4 専攻トピックス
- 5 「酪農の夢」コンクール
- 6 育成支援・農福連携支援研修の修了
- 7 トピックス  
始業式の開催、進路セミナーの開催、  
東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会  
経営管理研修、岡崎市内小学生親子の農大見学

愛知県立農業大学校  
公式HP



Instagram



X (旧 Twitter)





## 新年のごあいさつ



**校長 石橋良洋**

新年あけましておめでとうございます。

日頃から農業大学校の円滑な運営に対しまして、関係者の皆さま方の御支援、御協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昨年5月からは、新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられたことで、農大祭をはじめ様々な行事が制限のない形で行えるようになり、学生も生き活きと学校生活を楽しんでくれています。

年が改って、2年生は卒論のとりまとめとともに、オーストラリアへの海外派遣研修を行い、3月には卒業式を迎えます。また、企画研修部の就農希望者を対象とした長期研修も順次修了するなど、学生や研修生が無事巣立ちの時を迎えています。これもひとえに、関係各位の御理解と御協力のおかげであると感謝申し上げます。

さて、2024年度入試の状況ですが、定数100名に対して一次試験までで85名の合格者を出しています。現在は二次試験の募集中ですが、引き続き農業大学校の魅力発信に努め、意欲ある学生の確保に取り組んでいきたいと考えております。

本年も、職員一同、魅力ある学校づくりとともに、学生や研修生が大きく飛躍できるよう一生懸命に取り組んでまいりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



**農学科後援会長  
山口泰裕**

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様には、日頃より農学科後援会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本後援会は、学生の寮生活における福利厚生や教育内容の充実への協力のほか、農大祭等へ参加し自らの研鑽に努めることなどを目的としており、皆様からの会費をもとに、学生への支援事業等を行っています。

去る12月2日の農大祭では、保護者の方からたくさんの農産品をご提供いただき、また当日は、多くの方にバザーのご協力をいただきましたこと深くお礼申し上げます。

今年も引き続き、農業大学校と連携をとりながら、学生が充実した学校生活を過ごせるよう後援会活動の充実・発展を図って参ります。

本年が学生、保護者の皆様にとって、希望に満ちた輝かしい年でありますよう心よりお祈り申し上げますとともに、農業大学校の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 専攻紹介

# 露地野菜専攻

露地野菜専攻は、愛知県が日本一の生産を誇るキャベツなどの露地野菜栽培とイチゴの促成栽培を行っています。農業の未来を担う学生29人（2年生15人、1年生14人）がメンバーです。

ほ場の広さは1.5haと広大で、季節に応じて様々な品種を栽培しています。その数は40品目にもなり農大での専攻実習を通してこれらの栽培方法を学ぶことができます。

大きな面積の栽培に適した機械化やイチゴの栽培では環境制御技術の導入も行っています。また、多品目の栽培方法など日々多くのことを学びながら、栽培だけでなく売り方やブランド化など販売方法の工夫も学んでいます。

### 専攻実習の様子



## 機械化



大きなトラクターを使った耕運、乗用の農薬散布機での防除など様々な機械を使うことができ、今年度からはGPSトラクターも導入されスマート農業も学べます。



### 【機械の種類】

乗用農薬散布機、トラクター（70馬力）、ジャガイモ堀機、巻取り式動力噴霧器、プランイラー、マルチ張り機など



## 販売促進



珍しい野菜の栽培も行っているため、お客さんが買いたくなるようなポップを作成し販売促進を図っています。

### 【ブランド化】

大玉イチゴ専用パッケージを作り付加価値化



## イチゴの設備



農大のイチゴはとても甘く好評です。炭酸ガス発生装置やモニタリング機器など環境制御を学べる設備が整っています。

### 【農大イチゴ栽培について】

- ・完熟出荷で糖度が高く甘い
- ・炭酸ガスを利用し光合成を促進
- ・細霧冷房により湿度をコントロール
- ・愛知県で栽培される3品種を学ぶことができる



イチゴの給液管理



モニタリングデータをチェック



## 多様な品種



栽培品目は40品目以上。自分の育てたい野菜をこだわって作っています。

### 【栽培品目】

キャベツ、ブロッコリー、イチゴ、スイートコーン、カリフラワー、ナス、キュウリ、オクラ、ズッキーニ、スイカ、メロン、アスパラガス、パレイショ、タマネギ、ホウレンソウ、ダイコン、コマツナ、ネギ、チンゲンサイ、レタス、ハクサイ、エダマメ、インゲン、ラッカセイ等



ホウレンソウの調査



ダイコンを収穫



ハクサイの収穫

特集

# 令和五年度卒業論文発表会



## わたしたちのプロジェクト

### 令和5年度卒業論文発表会

令和5年度農学科卒業論文発表会が12月12日（火）に大講義室で開催されました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組みます。日頃、実習の中で学生自身が感じた疑問点や改善点を課題に取り上げ、その探究・解決に向けて実施した研究の結果を卒業論文にまとめます。卒業論文発表会では、各専攻で選ばれた2年生9名が10分間の持ち時間でプレゼンテーションを行います。

ただ、今年は農大祭で燃え尽きたためか、発表会を前に校内でインフルエンザが流行し、資料準備や発表練習に苦労した学生もみられました。

当日は、司会や時間計測など、発表会の運営を学生会1年生が担当しました。また、県内農業系高校の先生方や人間環境大学の関係者もお招きしており、農大生の研究成果を外部に発信する良い機会となりました。

発表者は、緊張しながらも、自信に満ちた発表を行いました。質疑応答では、審査委員や学生から活発な質問が投げかけられ、時間が足りないほどでした。その都度、発表者は的確に回答していました。

審査の結果、最優秀賞1名と優秀賞2名が選出されました。最優秀賞の作物専攻・平松拓海さんの課題は、1月に開催される東海・近畿ブロック農業大学校研究及び意見発表会において本校代表として発表されます。ただ、今年度は2年生の海外派遣研修と日程が重なるため、同じ作物専攻の後輩・稲垣椋介さんが代理で発表します。



少し緊張気味の中、堂々と発表された皆さん



審査委員や会場の学生から活発な質問

表彰式

	発表者（専攻）	発表課題
各専攻の発表者 (当日発表順)	中村 花凜 (切花)	バラ仕立て方法による収益性への影響
	吉田 綾音 (酪農)	チーズの差別化方法の検討
	杉山 茜 (養豚・養鶏)	肥育豚におけるエゴマ粕給与が発育と肉質に与える影響
	平松 拓海 (作物)	ICT技術を用いた水稲の最適な栽培方法の検討
	鈴木 響 (養豚・養鶏)	ロイコチトゾーン症の原因究明と対策法の検討
	鈴木 月那 (露地野菜)	亜リン酸の葉面散布の頻度がキャベツの生育に与える影響
	平井みのり (施設野菜)	ICT温室における大玉トマト40tどりを目指した日射比例灌水の検討
	長尾 成海 (果樹)	ハウスミカンへの結果枝吊り下げとマルチ被覆が果実品質へ与える影響
	石井 圭人 (鉢物・緑花木)	施肥量と生育環境がシンビジウムに及ぼす影響

審査講評

審査委員長 校長 石橋 良洋

各専攻代表の発表は、技術の実効性や妥当性などの実証、結果の取りまとめ、考察も全般的に良くできていました。

最優秀賞の平松さん（作物専攻）は、県内で実施される水稲の各種栽培方法を比較するにあたり、ICT利用による評価技術を導入し、生育・収量はもとより収益性まで論じた点が評価されました。優秀賞の鈴木さん（露地野菜専攻）は県内のキャベツ産地でも関心を集める亜リン酸資材について、その処理効果を明快に示せた点が、平井さん（施設野菜専攻）は機器トラブルなどで十分にデータを取得できなかった中で、結果を上手に整理できた点が評価されました。他の発表もそれぞれに特徴があり、入賞した発表と比較して甲乙付けがたい内容でした。

本年度の卒論発表は専攻学習で得た技術的なテーマがほとんどでした。これら技術に関する効果や効率などの評価は重要な問題解決であり、さらに農業現場での実用性や消費者評価などマーケティングの発想を加えて、今後1年生へと引き継がれていくことを期待しています。

卒業論文研究及び発表は、農大での実践学習の総仕上げです。2年生の皆さんは、卒論研究で得た「問題解決能力」と卒論をキツチリとやり終えたことで得た「自信」を武器にして、卒業後の仕事や勉学に活かしてください。

最優秀賞 平松 拓海（作物専攻）

課題名「ICT技術を用いた水稲の最適な栽培方法の検討」



○課題設定の理由

愛知県での水稲の主要な栽培技術として、不耕起V溝直播栽培、移植栽培（普通苗・密苗）、有機栽培があるが、どの栽培技術が収量性、収益性において優れているのか実証した試験も少ないのが現状である。そこで、本試験では直播区、普通苗区、密苗区、有機区の収量性・収益性・食味について比較し、最適な栽培方法を検討した。

○実施方法

上記4区の生育及び収量の比較検討を行った。また、日々の作業内容・時間や使用した資材等のデータは、営農管理システムを用いてスマホから記録し、そのデータをもとに収益計算を行った。また、75名を対象にコシヒカリを基準品種とした食味試験を実施し、外観・香り・味・硬さ・総合の5項目で評価した。

○結果及び考察

精玄米重・千粒重も普通苗区・密苗区で高くなった。くず米率は普通苗区・密苗区で低くなった。有機区は最も精玄米重及び千粒重が低く、くず米率が最も高かった収益は直播区が最も低く、他の3区がほぼ同等となった。食味試験結果は外観で普通苗区・密苗区が優れた評価となり、味・総合で有機区が優れた評価となった。

千粒重が高く、くず米率が低い普通苗区・密苗区が最も収量が高いため、粒の充実や粒張りの良さが収量に結びついたと考えられる。また、収益性では直播区がやや劣るが、本試験では直播区は普通苗区・密苗区より100kg/10a程度精玄米重が低くなっており、この差を埋めることで収益性も改善されるため、今後の課題である。有機区の味・総合評価が高くなったため、有機栽培で良食味になる可能性が示唆された。



**優秀賞** 鈴木 月那（露地野菜専攻）

課題名「亜リン酸の葉面散布の頻度がキャベツの生育に与える影響」

**○課題設定の理由**

本校では、菌核病や黒腐病などの病気や生育不良により結球が不十分なため出荷基準に満たず、廃棄するキャベツが多かった。亜リン酸には発根促進と病害抵抗性を増やす効果があり、散布することでキャベツの病害の減少、根張り向上により、外観の良いキャベツを生産でき、廃棄となるキャベツが減ると考えた。亜リン酸の葉面散布資材である「ホスプラス」を散布し、その頻度がキャベツの病害と生育に与える影響を調査した。

**○実施方法**

キャベツ「初恋」を用い、以下の試験区を設定し、生育調査、収穫調査を実施。

- ①「無処理区」 ホスプラスなし
- ②「1w区」 1000倍希釈したホスプラスを1週間おきに散布
- ③「2w区」 1000倍希釈したホスプラスを2週間おきに散布
- ④「1m区」 1000倍希釈したホスプラスを1か月おきに散布

**○結果及び考察**

- (1) ホスプラスを2週間から1か月の頻度で散布すると結球前の生育が良くなった。
- (2) 散布頻度が最も多い1週間の試験区ではキャベツの成長が悪くなった。
- (3) ホスプラスを2週間から1か月の頻度で散布することで病害を減らすことができた。
- (4) 調整重では、1か月区が最も重く、単価の高い1箱当たり6～8玉の規格を多く収穫できた。
- (5) その結果、収益面や病害、生育など総合的な観点で1か月区が有効だと考えた。

**優秀賞** 平井 みのり（施設野菜専攻）

課題名「ICT温室における大玉トマト40tどりを目指した日射比例灌水の検討」

**○課題設定の理由**

本校では、ICTによる環境制御を導入した高軒高温室における大玉トマトの促成長期栽培が4作目である。昨年度は日射比例灌水による灌水方法を施行したが、給液量過多が明らかになり、適正な積算日射量を検討する必要があるが出てきた。また、排液調査方法が不十分で正確な排液量が記録できていなかった。そこで、本試験では排液ロガーを用いて日射比例灌水による適正な積算日射量を明らかにし、収量40t/10aを目標にした生産性の向上、排液量を減らすことによる環境負荷の低減を目指した。

**○実施方法**

トマト「麗旬」を用い、ココバッグ栽培で以下の試験区を設定し、生育調査、収穫調査及び排液調査を実施。

- ① 慣行区：タイマー灌水制御方式で1日当たり800～1200mL/株で灌水した。
- ② 日射比例区：1日1回200mL/株を強制灌水し、加えて積算日射量2～3MJ/m<sup>2</sup>毎に200mL/株を灌水した。

**○結果及び考察**

- (1) 草勢は慣行区で最も安定し、収量も慣行区が期間を通して他区より多く推移した。
- (2) 花房数や葉数は日射比例区で多かった。
- (3) 日射比例区は、慣行区に比べて222株当たりの給液量14000L、排液量11000Lを減らすことができた。
- (4) 慣行区の収量は約24t/10aであった。

日射比例区で草勢や収量の低下がみられたため、積算日射量を2MJ/m<sup>2</sup>より低く設定するなど時期毎の最適な日射量値を精査する必要がある。



# 専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

## ○専攻別学生数

（注）カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	7 (2)	5 (1)	9 (2)	15 (5)	14 (7)	15 (3)	15 (6)	10 (3)	90 (29)
2年	3 (1)	7 (2)	5 (1)	10 (0)	15 (7)	13 (3)	9 (6)	8 (4)	70 (24)
計	10 (3)	12 (3)	14 (3)	25 (5)	29 (14)	28 (6)	24 (12)	18 (7)	160 (53)



### 子牛の元気な姿に癒やされています！

哺育と育成期は、将来立派な搾乳牛や肥育牛となるために足腰を鍛える大切な期間です。そのため、最近は牛が草地で過ごす時間をつくっています。走ったりはしゃいだりすごく楽しそうで、元気に育つ姿が見られて私たちもとても嬉しいです。

寒くなってきたこの季節ですが、子牛と一緒に走ったり、楽しそうにはしゃぐのを見ていたりすると、心も体も温まってこの寒さを乗り越えられそうです。



### ～種豚を導入しました～

養豚専攻では、系統豚を飼養して三元肉豚を生産しています。「系統豚」とは同一品種を5～7年間交配し、繁殖能力が高く、肉質や個体の大きさなどのバラツキが極力無いように改良された種で、愛知県では、長久手市にある農業総合試験場が系統造成を行い、畜産総合センターで増殖を行い県内農家に譲渡しています。

養豚専攻では、今年度、畜産総合センターから種豚を導入し母豚候補豚として育成しています。導入当初は初めての場所で落ち着きがなかったのですが、今ではすっかりリラックスして、学生たちに頭を撫でられたり、鼻でスキンシップを取ったりしています。発育も順調でこれからの活躍が楽しみです。





Crop



作物



## 大豆の収穫を実施！！

大豆の収穫作業を実施しました。大豆の収穫には汎用コンバインを使用するため、近隣のオペレータからお借りして、収穫作業の実演を行いました。普段使用しているコンバインとの違いについて説明を受けた後、実際にコンバインを操作させてもらいました。

大豆は稲とは違い、地際部分にも豆ができるため、コンバインの刈刃の高さの調整に苦労していました。今年度大豆作では雑草害に苦しめられたため、反省点を次作に活かしていきたいです。

Fruit tree



果樹

## 次作のハウス栽培に向けて、ビニールを張替えました♪

1月17日、1・2年生の学生が協力して、加温ブドウハウスのビニールを張り替えました。果樹専攻では、例年ローテーション形式でハウスのビニールの張替えを行っており、毎冬の恒例作業となっています。作業当日は天気良く、風のない晴天日であ

ったため、効率よく作業を進めることができました♪

学生は作業が慣れてくると、早くビニールを固定することができたり、ハウスの上をスムーズに歩くことができていました。加温作型のブドウは2月中旬から保温を始め、学生たちが丁寧に管理をし、7月初旬に販売します。美味しいブドウを食べる日を楽しみに、管理を頑張っていきます♪



Cut Flower



切花

## ～もらった枝も咲かせましょう～

前回、リース作成でコラボした果樹専攻から、今度は剪定されたウメの枝をいただきました。膨らみかけの花芽がたくさんついていたので、咲かせてみることにしました。

大きなバケツに水を5cmほど張ってウメの枝を入れ、害虫対策に農薬を散布し、暖かなバラの温室に放置。すると、1週間ほどで可愛い花が咲きました。

同様の方法で、サクラ、ハナモモ、サンシュユ、レンギョウ、ユキヤナギなども咲かせることができます。こうして咲かせた枝物が、卒業式や入学式の壇上の飾花に使われていたりします。

ちなみに、農薬を散布しないと、ガの幼虫が大量発生して悲惨なことになります。真似する際は御注意ください。





## ～冬の寒さを乗り越えて～



鉢緑専攻では、春の出荷に向けて播種や鉢上げを行っています。花の種はとても細かく、セルトレイに播くのも一苦勞。集中力が途切れないように学生たちは真剣な様子です。写真はスペーシングと呼ばれる花苗の間隔をあけて並べる作業です。

ここから2か月、植物たちは冬の寒さに当たり、時間をかけて成長します。色鮮やかなお花たちが並ぶまでもうしばしお待ちください。



## ナスのハウスに炭酸ガス局所施用機を導入！！



これまで施設野菜専攻のハウスナス栽培では仕立て本数を増やすなどして収量増加を目指してきました。今作からは更なる収量増加の方策として炭酸ガスの局所施用を実施しています。炭酸ガス局所施用とは小さな穴が空いているダクトを群落内に通し、そこから炭酸ガスを局所的に施用する方法で、局所に施用することでハウスを換気しているときでも効率的に光合成に活用されることが期待できます。

今作では炭酸ガス局所施用の有無を学生のプロジェクトの題材としているため、収量や生育が向上し、効果が出ることを期待しています。



## スマート農業の一つ ドローンによる農薬の空中散布を学ぶ！

1月22日に露地野菜専攻のほ場でドローンによる農薬の空中散布の実演を行いました。当日は株式会社D S Aの方々から、ドローンについての基礎知識や農薬散布について説明があった後に、実際にキャベツのほ場で農薬に見立てた水の散布を行いました。実際に飛んでいるドローンの音は小さく、非常にスムーズに散布が行われていました。

学生たちは初めてのスマート農業技術にふれ、普段よりも格段に速く、簡単に農薬を散布できる様子に驚いていました。



## 第17回全農学生「酪農の夢」コンクールで優良賞

「第17回全農学生『酪農の夢』コンクール」において、本校酪農専攻1年生の松本侑馬さんが優良賞を受賞しました。昨年の11月30日（木）に東京で開催された表彰式に、入賞した全国の学生7名とともに参加しました。

応募数 159 作品の中から選ばれた入賞者の中では唯一の男性で、緊張している様子もありましたが、受賞スピーチでは堂々とした姿で、全農の担当者からもお褒めの言葉をいただきました。

また、本校酪農専攻1年生の中村花和子さんが「BEST20」の入選を受賞しました。

受賞作品は全農のホームページ内で閲覧することができますので、ぜひご一読ください。



酪農専攻1年生  
松本侑馬さん

## 令和5年度農業者育成支援研修終了

昨年の6月14日に開講した令和5年度農業者育成支援研修が、1月19日の閉講式をもって終了しました。

本年度の研修生は、年齢こそ30歳から60代と幅広いですが、皆さん「これから農業を始める」という強い志を持った7名でした。7か月間の研修で、ナス、キュウリ、スイカ、プリンスメロン、ダイコン、キャベツ、ハクサイなどの栽培や講義、土壌分析実験や大型トラクター運転実習など、露地野菜栽培の基礎的な知識・技術を習得しました。

本年度は、台風や、秋の長雨による被害もなく、皆さんが丹精込めて栽培した野菜が、しっかり収穫できました。初めて自分の手で、種まきから収穫までした野菜を手にしたときの達成感は、これから進む農業の道に、確かな道標となったことと思います。

閉講式では、研修生の一人ひとりが、これから目指す農業への抱負を力強く述べました。その後、石橋校長から修了証が手渡され、ねぎらいと激励の言葉を受け、閉講式は終了しました。



## 令和5年度農福連携支援研修修了

令和6年1月19日に令和5年度農福連携支援研修の閉講式を開催し、14名が6月14日から8か月間の研修を修了しました。

研修生は、福祉事業所などで忙しい業務をこなしながらも、概ね週1回、暑い中、寒い中でのほ場実習・座学での講義を通じて野菜の栽培管理や基礎知識の習得に向けて熱心に研修に取り組みました。



また、閉講式前には、研修受講後の抱負・決意について一人ずつ発表を行いました。研修生からは、「実習で農業のこと、講義で福祉での支援方法といろいろな角度から学べてよかった」「この経験を生かして利用者さんが収穫の喜びを味わう支援をしたい」「一緒に学んだ方々と農福のネットワークを広げていきたい」などの声が聞かれました。

研修生の皆さんには、研修で学んだ知識や技術を活用し、それぞれの職場で施設利用者さんが生き生きと農作業に取り組めるよう、活躍を期待します。

### 研修を修了して(研修生から)

温かい皆さんや先生たちと共に学べて楽しかったです。微力でも農福連携に貢献できるように今後も精進したいと思います。

この研修に参加して、先生方や皆さんと一緒に学んで、これからのお手本とする人や目標が見つかりました。ありがとうございました。

農業にはいろいろなやり方や考え方があり正解がないことがわかり、面白いと思いました。学んだことを2月から畑にぶつけていこうと思います、ありがとうございました。

専門的な農業から福祉の支援の仕方まで、いろいろな角度から学ぶことができました。週1回の研修は勤務の調整と良いペースでできました。改めて学ぶことの楽しさとともに、農業と福祉の難しさを感じました。知識だけでなく実践で生かしていけるよう、経験を積んでいきたいです。

農業のイロハもわからないところからスタートして手取り足取り、先生方や皆様に教えていただき本当にありがとうございました。この経験を活かして、収穫の喜びを味わえるよう、利用者さんたちを支援しながら自分も含め農作業を楽しめるよう試行錯誤していきたいです。

支援施設の現状に行き詰まりを感じていたが、本研修を受講して様々なアイデアが湧いてきた。マルシェや子ども食堂などやってみたい。皆さんに感謝です。

皆さんや先生方にお会いし、ほ場で実習するのが楽しくて仕方がなかったです。「農業と福祉」に加え、「農業と高齢者」についても考えていかねばならないと思っています。

農大で研修を受けられたことを大変誇りに思っています。振り返るとあつという間でした。教わる沢山の作物をほとんどそのまま同時進行で会社と実家でもつくっていたため、毎日講義を受けて勉強している様なそんな充実した期間を過ごせました。一人で農業をやるよりも、大勢で農業をやった方が、幸せも喜びも沢山あります。そんな幸せを農大で学びました。

## トピックス

### 始業式を行いました

1月10日(水)に始業式を行いました。

石橋校長からは「新年早々、能登半島地震など痛ましい出来事があり、人ごとではなく、防災意識を高めておくこと。また、新年の目標を立てて努力し挑戦する取組をしてほしい。今期、2年生は海外研修もあり、健康管理に気を付けて、卒業まで悔いのないように過ごしてほしいこと、1年生は、就職活動が本格化するので、家族や先輩等の意見を参考にしながら、しっかりと進路を考えて進めてほしい」との講話がありました。

1年生は上級生となる準備と自覚を持ち、また、2年生は最後まで気を緩めることなく農大生としての気概を持って生活してほしいと思います。



### 第4回進路セミナーを開催しました ～社会人としてのマナーを学ぶ～

1月18日(木)、1年生を対象とした第4回進路セミナーを開催しました。

チエルコミュニケーションブリッジ株式会社の菊田隆之先生を講師に迎え、「社会人としての基礎的マナーを身につけるために」と題してご講義いただきました。

学生は全員がスーツ等を着用し、まず、社会人として必要な身だしなみ、言葉使い、名刺交換や電話の応対などについて説明を受け、全員で声に出すなどの実技も行いました。次に、面接における身のこなし（ノックの仕方、座り方、姿勢、あいさつなど）についても、リズムやスムーズさも含めて、きめ細かく指導を受けました。

また、指名された学生が前に出て菊田先生に実技指導を受ける中、その様子を見て手元の資料にメモを取る学生の姿が見られました。

間もなく始まる就職活動において、学生には今回のセミナーで身につけたことを生かして、それぞれの希望進路にチャレンジしていただきたいと思います。



## 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会が開催されました

1月18日(木)～19日(金)、令和5年度東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会が大阪市東住吉区で開催されました。この大会は、農大で取り組んだ研究の成果や農業経営、農村環境、就農等について日頃考えていることや思いについて東海・近畿の9府県の農業大学校の代表が発表するものです。本校から研究発表の部に海外研修のため参加できなかった平松拓海さんの代理で作物専攻1年生の稲垣椋介さん、意見発表の部で養豚養鶏専攻1年生の松井幸生さんが代表として参加しました。

2人とも緊張の中、発表を行い、審査員からの質問にも的確に答えていました。

結果は入賞には至りませんでしたでしたが、他府県の農業大学校の研究発表や意見発表を聞き、大いに刺激を受けたようでした。また、農大生同士積極的に交流して親交を深め、たいへん有意義な発表会となりました。



## 経営管理研修(パソコン農業簿記活用研修)を行いました

1月15日(月)、農業大学校中央教育棟情報処理研修室において、令和5年度経営管理研修パソコン農業簿記活用研修を行い、30名の参加がありました。

講師の樋田先生からは、決算整理の手順の講義から始まり、項目ごとに演習問題を出題され、仕訳、農産物の棚卸、減価償却、保険積立金の処理方法などの説明がありました。

最後に、参加者からの質問に先生が丁寧に回答され、研修会は終了しました。研修後のアンケートでは、「わかりやすかった。」「パソコンを導入してみたい。」等の感想をいただき、有意義な研修会となりました。



## 岡崎市内の小学生親子が農大を訪れました

12月26日(火)に岡崎市農林業振興推進実行委員会主催の「冬休み農産物産地ツアー」があり、小学生親子23人が農大を訪れました。

トマトのICT温室や洋ラン温室などを案内し、「クイズ形式で農大の広さはどのくらい？」などと質問して答えてもらう方法で、農大への理解を深めてもらいました。初めて見るICT温室の仕組みや農大の広さにびっくりする様子も見られました。

このツアーを通して農業や農大への関心が深まることを期待しています。

